



『実りの二学期』を迎えるにあたって

校長 海 頭 巖

8月23日（土）の午前中に『ふれあい作業』を行いました。およそ200名の保護者が参加され、児童と教職員も一緒になって除草作業をしました。参加された保護者の数の多さと、お父さん方の参加率の高さに驚き、心から「ありがたい！」と思いました。

除草作業中に、玉のような汗をかきながら本気で草を抜いている私を見て、ある女の子が、「校長先生すごい汗。タオルで拭いたら…」するとすかさず、横にいた男の子が「顔にオイルを塗っているみたい…!？」と。思わず「水、いや汗もしたたるいい男！」と、心の中で呟いてしまいました。オイルを塗りたいく私とは対照的に、私が使っていたねじれ鎌は、次第にサビの化粧を落としはじめ、鉄の素肌の銀色が徐々に現れ始めたのです。「よし、もっと鮮やかさを増やしてやろう！」と、更に草と格闘し続けました。除草作業を終え、ねじれ鎌についた土を洗い落としてみると、もとの銀色の鮮やかな輝きを放っていました。一方、オイルで塗りたいく自分の顔も洗い流してみると、またもとの〇〇な顔に戻っていたのです。（〇〇の部分はご想像にお任せします。）終了後、校内を回ってみると、うずたかく盛られた草の山の高さとその数の多さに驚くと共に、草の抜かれた地面が、強い日差しを浴びて輝いており、神々しささえ感じました。これも、子どもたちと保護者そして教職員との三位一体の成せる成果の一つだと思いました。そんな思いに気づいた私の〇〇な顔は、きっと人には清々しい顔に映ったことでしょう。

夏休み中、校長室で日々耳にしていたのは、激しい雨音と蝉時雨ばかり。こんな日々もあと数日で終わります。30余日ぶりに触れた子どもたちの『元気な声と素敵な笑顔』。やはり学校はこうでなくっちゃ・・・。

二学期に向けて子どもたちを迎える準備は整いました。よく『実りの二学期』と言われます。子どもたち一人ひとりがどんな花を咲かせ、どんな実をつけるかを楽しみにしています。そのためには、私たち教職員と家庭、そして地域が一体となって、子どもたちの心に栄養をしっかりと与え、成長の妨げになる草（危険性）を抜いてあげることが大切だと思います。今後とも常盤小学校へのご理解・ご協力をお願いします。